

『地域の文化と安全・安心を守り続ける』 松江市町内会・自治会の活動紹介

松江市町内会・自治会連合会は市内29地区連合会で組織され、半世紀以上にわたって伝統的行事などを通して世代間交流を図ってきました。また、行政との連絡調整機能も担い、高齢者や子供たちの見守り活動、自主防災活動などを展開し、安全・安心でよりよい地域づくりに取り組みしてきました。少子高齢化や人口減少などにより、多くの市町村がさまざまな課題を抱える中、よりよい地域づくりを進める上で住民主体の自治組織の役割はますます重要になっていきます。誰もが豊かで安心して暮らせる松江市の実現と地域活性化を目指す同連合会の取り組みを紹介します。

大学生の空き家利用や国際交流で街に活気

地域の交流

近年、各地で少子高齢化問題が進み地域を支える住民の減少に伴って、空き家の増加や自治会活動が衰退し、地域内の交流の場が少なくなっています。



あさひ日本語ひろばの学習風景

持田地区は空き家を利用し、大学生や留学生に入学し、約10年前に空き家となった民家を利用するために、自治会長を中心に家主に修繕の交渉をおこない、生活できる環境を整備。今春3月から島根大学の学生5人が入居しました。入居した学生は、地元住民と荒廃農地開墾や野菜作り、自治会活動にも積極的に参加しています。また、地域内の別の空き家には島根大学の留学生が30年2月から入居予定で、住民との新たな交流が期待されています。

てもらうことで、新たな人材の獲得に向けた活動を展開しています。

沿革

松江市町内会・自治会連合会は、「昭和の大合併」前の旧市内6地区と合併後の新市内15地区が、1960年代初め、それぞれに「町内会・自治会連絡協議会」を結成し、活動してきました。1985年（昭和60年）に旧市内と新市内の各地区が統合し、「松江市町内会・自治会連絡協議会」として発足。1991年（平成3年）に「松江市町内会・自治会連合会」に名称変更し、「平成の大合併」によって、現在の29地区体制となっています。

化祭、防災訓練等の地域行事への参加が増えたり、白濁天満宮の神輿担ぎの経験などがきっかけとなって松江市に永住されるケースもあ



入居した大学生と地域住民

ります。学びを通して交流が深まり、結果として定住につながる成功事例といえ、今後も地道な活動を続けていく考えです。

伝統行事を若者に継承、深まる世代間交流

人材育成

地域コミュニティの維持には、次世代を担う若者や子供たちの存在と活動が欠かせません。約300世帯ある城西地区の南平台団地は、伝統行事を若者たちが継承して、まちの活気づくりにつなげています。



祭りを楽しむ地域住民

約25年前、当時50歳前後だった住民たちが夏祭りやどんど祭りなどの行事を始めました。しかし、中心メンバーの高齢化に伴って伝統行事や地域文化の継承が難しくなってきたため、2012年（平成24年）に若者の会を結成。夏祭りやどんど祭りは企画、運営に至るまで若者や子供たちが中心となって行うなど、若者を中心とした行事運営に成功しています。

津田地区では2012年

（平成24年）から、毎年7月5日から8日までの期間で七夕まつりを開催しています。祭りを彩る笹飾りを幼稚園児や小学生、保護者、地域の高齢者たち約1000人が協力して作り、七夕のムードを盛り上げます。

まつり初日に津田小学校に集まって由来を聞き、「たなばたさま」を合唱した後、地域の高齢者から笹飾りの作り方を学びます。

1000人の思いがこもった笹飾りは津田小学校や津田公民館、津田幼稚園の道路沿いに協力して設置することで交流の輪を広げています。

自主防災で街に安心を、交通安全活動も展開

地域の安全・安心

全国各地で地震や水害などの大規模自然災害が発生したり、犯罪の凶悪化が指摘され地域との連携がこれまで以上に必要とされる中、地域の安全・安心を住民自ら守る取り組みが注目されています。



カーブミラー清掃を行う松江市立第四中学校の生徒

持田地区は約10年前から同地区連合自治会と持田公民館が中心となって、火災や災害など緊急時に備える研修会や講習会を行っています。毎年6月に松江消防団持田分団と協力し、同公民館で自治会長や自主防災隊長、地域住民約50名を集めた防災研修会を実施。また、秋の全国火災予防週間には同地区消防協会と共催で地震や煙体験、消火器の取り扱いなどに関する講習会も開催して防災意識を高めています。

また、2016年（平成28年）には豪雨被災地の現状とボランティア活動について学ぼうと、被害を受けた広島市安佐北区大林地区を視察。約40人が現地住民との意見交換、交流会を行うなど、防災体制の強化を目指した活動を展開し



夜間パトロールを行う隊員

ており、今後も隔年で各地の視察などを行う予定です。

JR松江駅周辺地域では、2006年（平成18年）10月から地元隊員らが夜間パトロールをしています。隊員としては「朝日地区、雑賀地区、白濁地区」の3地区の「地域安全推進委員会推進員」と「勢宮町内会」役員合計約40人のうち12〜13人が参加。毎月第2金曜日の夜に若者たちへの声掛けや駐車違反への指導

など、駅前交番の警察官と一緒に実施しています。駅周辺エリアや繁華街を安心して行き交ってもらうことを目的としており、駐車違反が減った「隊員の存在は心強い」と活動は市民から支持を得ています。

また、交通安全活動の一環として、津田地区では約30年前から松江四中の生徒と地域住民が協力して地区通学路内にある約70か所のカーブミラー清掃をしています。夏休みに行う作業には毎年30名程度が参加しており、中学生からは「地域の役に立ててうれしい」、住民からは「中学生との作業が楽しみ」「地域の子どもたちがよくあいつするようになった」との声が聞かれます。作業や活動を通じた人と人のつながりが防犯意識の高まりや災害時の助け合いにつながっており、安全・安心なまちづくりの根幹になっています。

あとがき

地域に生きる

各地で発生している地震や水害などの大規模災害により近年、地域の連携が重要視されています。一方で少子高齢化や核家族化の進展、希薄になる人間関係など、全国各地の自治体が共通した課題を抱えています。

より良い地域づくりには「住民の交流」「安全安心の確保」「次世代を担う人材育成」がキーワードになり、こうした取り組みは、地域づくりやまちづくりに欠かせない要素です。

私たちの生活は「地域」という基盤の上に成り立っています。地域をつくり上げていくのは住民一人ひとりであり、集合体である自治組織です。松江市町内会・自治会連合会は地域における日ごろの取り組みや自治体との連携強化を通じて、住みよい地域づくりを実現するため、これまで以上にさまざまな活動に取り組みしていく方針です。



笹飾りを作る子供たち